

# Jahresbericht 46

JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT  
WESTJAPAN



年報 第46号

令和4年10月

 西日本日独協会

FUKUOKA JAPAN 2022

表紙の写真：イエナの「ロマン派文学館 Literaturmuseum  
Romantikerhaus」…かつての J.G. ファイヒテ邸、F. シュレー  
ゲルら初期ロマン派に関する博物館

# 目 次

## ■ 挨拶 ■

ごあいさつ 岡嶋 泰一郎…………… 1

## ■ 寄稿 ■

ヘルマン・ヘッセの*Peter Camenzind*(邦題『郷愁』) 永元 康夫…………… 3

## ■ 報告 ■

「会員による会員のためのオンライン講義」を振り返って 小黒 康正…………… 5

現代ドイツのフットワーク 小黒 康正…………… 7

グリムのメルヒェンにもとづく二、三の映画について 富重 純子…………… 9

オーストリアにカンガルーはいない？  
「カカーニエン・キッチュ——映像に描かれたオーストリア像——」 堺 雅志…………… 11

『ルツィンデ』と「文芸の共和国」 武田 利勝…………… 13

『アポロン独和辞典 第4版』 福元 圭太…………… 15

## ■ 会員だより ■

〈新入会員自己紹介〉  
吉富 惟亮 …………… 18

〈会員より〉  
川上 達也 …………… 18

## ■ 事務局報告 ■

I. 2021年度会員動向 …………… 19

II. 2021年度活動報告 …………… 19

III. 2021年度協会収支決算報告、留学生基金収支決算報告および会計監査報告 …………… 21

IV. 2022年度活動計画 …………… 22

V. 2022年度協会会計収支予算 …………… 23

■ 2022年度役員等名簿 ■ …………… 25

■ 西日本日独協会会則 ■ .....	26
■ 会員名簿 ■ .....	27
■ 編集後記 ■ .....	28

●広告一覧

西部ガス .....	ii
藤産婦人科 .....	2
同学社 .....	17
シュタットマイイツ .....	18
城島印刷株式会社 .....	25

いつもの街に、  
いつもどおりの  
毎日を。

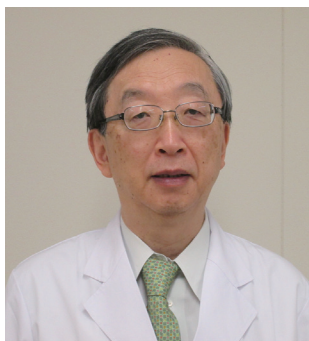
守りたい街があります。  
守りたい暮らしがあります。  
かけがえない毎日を大切にしたいから。  
私たちは、暮らしの中のガスを  
より安全に使っていただくために、  
さまざまな工夫や対策を行ない、  
いつも皆様のそばで  
快適な暮らしを見守っています。  
お客さまの安心が、  
私たち西部ガスの使命です。



## ■ 挨拶

### ごあいさつ

西日本日独協会会長 岡嶋 泰一郎



9月に入り、まだ日中は暑い日が続いていますが、朝夕は秋の訪れが少しずつ感じられるようになりました。コロナ禍の収束が見えず、日独協会の例会で、会員の皆様にお会いすることが叶わず、寂しい思いをしています。私は通勤の帰り道に千代町から貝塚方面への地下鉄を利用しますが、何度か例会を開いたレストランを見上げながら、懐かしい思いに満たされ、いつになったら、またあそこで楽しい例会がひらけるものか、と考えをめぐらしています。さらに、時々地下鉄乗り場で副会長の宮崎先生にお会いすることがあるのですが、まるで百年の知己に出会ったような懐かしさでいっぱいになり、電車が来るまで話し込んでいます。コロナ禍が落ち着き、初めて開かれる例会は、大変感動的なものとなるでしょう。

さて、休会中の間でも、田口先生を委員長とする、年報編集委員会は開催されており、委員の皆様のご尽力により、この度、年報第46号が発刊されることとなりました。会員からの寄稿、近況報告に加え、やはり休会中に行われた「オンライン講座」の報告が掲載され、充実した内容の年報となりました。「オンライン講座」は、副会長・企画委員長の小黒先生が中心となって、企画されたもので、九大、福大の先生方が、ドイツ文学やドイツ語学についてわかりやすくお話をされたものです。素晴らしい先生方のお話は、大変興味深く、知的欲求が満たされるものです。オンラインでご覧になれなかった方にも、ぜひ読んでいただきたいと思います。

さて、先日、懐かしさに駆られて、久しぶりに高校の卒業アルバムを手にとってみました。私の母校は大分上野ヶ丘高校で、当時は受験校として名をはせていました。団塊の世代の真っ只中で、1学年700名以上はいたと思います。私は、1967年の卒業ですから、はや、55年になります。アルバムには、クラス担任の先生方が、卒業生に贈るはなむけの言葉を書かれています。それぞれの先生方の温かい思いを感じ、さて、私の担任であったW先生は何を書かっていたのだろうと、ページをめくりました。そして、そこに書かれていたものを見て、驚くとともに、深い感動を覚えざるを得ませんでした。そこには、「ぼくは山へ登ってゆこう」に始まる、自由に憧れるドイツの詩人、ハイネの詩が書かれていました。私は、このアルバムにハイネの詩が書かれていたことを、すっかり忘れていました。当時の、私の未熟な精神に刻まれなかったのでしょうか。そして、数学の教師であったW先生とハイネの出会いがどんなものであったのかなど、いろいろな

ことを聞いてみたいという思いに駆られました。しかし、先生はすでに故人であり、その願いは、叶いません。

でも、先生が書かれたハイネの詩が、今ここに現れ、私の心に届いたことは、先生のメッセージが、私にとって適切な時期に、再度贈られてきたのかもしれない。そう思うと、W先生に感謝の気持ちでいっぱいになります。

ところで、このハイネの詩は、『ハルツ紀行』の中にあると言われています。なかなか手に入りにくいものようです。堀秀彦という方の、『格言の花束』という書籍の中に、ドイツ語原詩と日本語訳が載っていますが、この詩についての解説は、何も書かれていません。

本稿の最後に、この詩を掲げます。W先生が書かれた日本語訳のままです。

ぼくは山へ登ってゆこう 貧しい小屋のあるところへ  
自由に胸がうちひろがり 自由の風の吹くところへ

ぼくは山へ登って行こう 樅の木がそびえるところへ  
小川が流れ鳥がさえずり 大きな雲がわくところへ

—ハイネ—

皆様にお会いできる日を心待ちにしております。

どうぞ、御身お大事におすごください。

# 藤 産婦人科

Toh Maternity & Women's Clinic

◎診療時間 月・火・水・金／9:00～12:30 14:00～18:00  
木・土／9:00～12:30  
◎休診日 日・祝日

〒811-2417 篠栗町中央4-15-12  
TEL 092-947-0358 FAX 092-947-1058

## ヘルマン・ヘッセの*Peter Camenzind*(邦題『郷愁』)

永元 康夫

ヘッセは、1904年(27歳)、出世作となった*Peter Camenzind*をベルリンのFischer Verlag(フィッシャー出版社)から刊行している。若き日に手に入れた*Peter Camenzind*(Suhrkamp VerlagズーアCamp出版社、1962年)、『郷愁』(高橋健二訳、新潮社、1965年15刷)は、今なおわたしの手元にある。

まず『郷愁』の冒頭の文章をテーマにしたい。わずか4行にすぎない文章だが難しい。

Im Anfang war der Mythos. Wie der große Gott in den Seelen der Inder, Griechen und Germanen dichtete und nach Ausdruck rang, so dichtete er in jedes Kindes Seele täglich wieder. (初めに神話があった。偉大な神はインド人、ギリシャ人、ゲルマン人の魂のなかで詩を書いた、そして言葉を探そうと努力した。そのように、子供たちの魂の中でも日々繰り返し詩を書いた。拙訳)

『新アポロン独和辞典』(同学社、2006年、第7刷)には、dichten=他動詞：ein Gedicht<sup>4</sup> dichten = 詩を創作する、自動詞：詩を書く、とある。上記の引用でヘッセは自動詞を用いている。インド人、ギリシャ人、ゲルマン人、子供たちの魂という表現は、彼の仏教への関心、マウルブロン修道院でのギリシャ語の勉強、ゲルマン民族であるとの自覚が、なせる業であろう。この人たちに代表されるわれわれ人間は、詩を書き、詩的なものを感じとる能力を神から授かったのだ。ロマンチストで詩的心情を大切にすヘッセらしさが表れているのは、Mythus

の選択だ。冒頭の„Im Anfang war der Mythos“は、新約聖書の「ヨハネによる福音書」の冒頭の„Im Anfang war das Wort, und das Wort war bei Gott, und Gott war das Wort“ (初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。新共同訳)を意識していると思う。このWortはギリシャ語で書かれたヨハネによる福音書のLogosをドイツ語に訳したものであるので、Wort= Logosと見做してよい。ウィキペディアで「ロゴス」を調べると「MythusはLogosと対比して用いられていた。前者は物語る言葉であり、後者は論証する言葉である。」とある。ヘッセがMythusを選んだ理由は、己の詩人として自負心、即ち、自然を詩的に書き、自然を感じ取れる言葉だからであろう。

冒頭の4行に続き、3頁の終末までは、湖と岩山、川、牧草地、雲、風等の自然が描かれる。これに続き、主人公ペーターの住むニミコン村の描写が始まる。「——私たちの小さい村ニミコンは、湖にのぞみ、二つの山の突出部にはさまれた、三角形の斜面にある。——」次にこのニミコン村はどこであろうかを問題にしたい。

ヘッセは、二十歳代前半、スイスの四森州湖やイタリアに出かけているので、ニミコン村は、四森州湖(Vierwaldstättersee)の湖畔の村であろう。そのなかでニミコン村を彷彿とさせる村が幾つかある。北岸のVitznau、Sisikon、南岸のBauen、Beckenriedである。わたしは、疑問を解くべく、1998年~2010年にかけて四森州湖を五度訪れ、上の村々を廻った。この様子は、

わたしのHP『歩きましょう、花を愛でましょ  
う、湖や川を巡りましょう』<https://blackkoala5.sakura.ne.jp> に詳しく紹介している。

図越良平氏はその論文「ヘルマン・ヘッセの『ペーター・カーメンチント』について」のなかで、この小説の舞台となっているのは、美しく静かな佇まいを見せるスイスの四森州湖畔の村 Vitznau (フィッツナウ) であり、ヘッセは最初の習作をここで書いたのであった、と述べている。その典拠とされている文献は S. Unseld, *Hermann Hesse – eine Werkgeschichte*, Frankfurt a.M.: Suhrkamp 1974. であるが、残念ながら未読である。

四森州湖では、1837年に最初の蒸気船で運航がスタートした。フィッツナウとリギ・クルムを結ぶ登山鉄道の開通は1871年。アルト・ゴルダウとリギ・クルムを結ぶ登山鉄道の開通は1875年である。ヘッセの生誕は1877年であるので、蒸気船と登山電車は既に営業を開始していたことになる。一方、ドイツからイタリアへの鉄道路線は早くから開通しており、ヘッセの故郷のカルフからホルプへはローカル線、ホルプから、ジンゲン、チューリッヒ、ツーク、アルト・ゴルダウ、ブルンネン、ジジコン、フリーレン、ゴッタード峠、ベリンツオーナ、ルガノ、コモを経由しミラノへ至る路線は本線となる。フィッツナウに行くには二つの経路が

ある。ジジコンで汽車を降り、蒸気船でジジコンからフィッツナウに向かう経路と、アルト・ゴルダウで汽車を降り、登山電車でアルト・ゴルダウからリギ・クルムに登り、ここから登山電車でフィッツナウに下る経路である。

ヘッセは1877年に生まれており、1901年(24歳)～1903年(26歳)、イタリアへの鉄道旅行を経験している。その途中、ジジコンに寄り、フィッツナウまで脚をのぼしたことは容易に推測できる。しかし、今となっては、ヘッセのフィッツナウへの旅は、上のいずれの行程でなされたのか、知る術はない。

2016年9月、わたしは再び四森州湖を訪れた。ルツエレンを出発した船は3時間後に Sisikon (ジジコン) に着いた。『郷愁』の主人公ペーターは、「私たちの小さい村ニミコンは、湖にのぞみ、二つの山の突出部にはさまれた、三角形の斜面にある」、と語るが、写真左にあるように、わたしはニミコン村の地形はフィッツナウよりもこのジジコンがぴったりあてはまる、と思う。写真右にあるように、図越良平氏が指摘しておられるフィッツナウは、このような地形ではない。それに、Nimikon と Sisikon は○i○ikon でありスペルが似ている。わたしは、ここを『郷愁』のモデルになったニミコン村 (Nimikon) であると思う。

(ながもと やすお 会員、内科医)



ジジコン村 左側に山の突出部が写っている。右側にも同じように山の突出部がある。即ち、ジジコン村は二つの山の突出部にはさまれた、三角形の斜面にある。



フィッツナウ村 右側は山の突出部と思えない。村の背後にリギ山が聳えているので村は二つの山の突出部にはさまれた、三角形の斜面にある、との表現は合わない。さらに、船着き場の傍に登山電車の停留所がある。



## 「会員による会員のためのオンライン講義」を振り返って

小黒 康正

2022年の盛夏、いまだコロナ禍の日本は「第7波」を迎える中、本会ではいまだ対面での催しが開催できない状況が続く。当方、企画委員長として、「会員による会員のためのオンライン講義」を今年度も継続し、「チーム〈ドイツ〉」のメンバーによる研究成果を分かりやすくお伝えする第5弾を行った。まずは全企画の内容を以下に示しておこう。これまでご講演を担当された方々、そしていつも熱心に聴講して下さった方々に、この場を借りて心より御礼を申し上げます。

### 第1弾 チーム「ドイツ」の最前線

- 第1回講義 2020年12月12日（土）17時から18時まで  
小黒康正（九州大学）：ゲーテの詩「漁夫」をめぐる新しい音楽観 「算術の水たまり」から「自然の泉」へ
- 第2回講義 2020年12月19日（土）17時から18時まで  
今井宏昌（九州大学）：戦間期ドイツ義勇軍文学と「男らしさ」『志願兵シュテンボック』をめぐる
- 第3回講義 2020年12月26日（土）17時から18時まで  
福元圭太（九州大学）：魂の測り方—自然科学の向こう側

### 第2弾 近現代ドイツにおける「女性」

- 第4回講義 2021年4月29日（祝）17時から18時まで

小黒康正（九州大学）：「水の女」の別れと出会い

- 第5回講義 2021年5月15日（土）17時から18時まで  
武田利勝（九州大学）：「マダム・ルシファー」と呼ばれた女——カロリーネの生き方

### 第3弾 近代ドイツの「フォルク」

- 第6回講義 2021年7月10日（土）17時から18時まで  
田口武史（福岡大学）：18世紀ドイツの「オリンピック」
- 第7回講義 2021年7月24日（土）17時から18時まで  
須藤秀平（福岡大学）：ドイツ人のアイデンティティと「国民」の文学
- 第8回講義 2021年8月7日（土）17時から18時まで  
小黒康正（九州大学）：民衆メルヒェンと創作メルヒェン

### 第4弾 映像の中の「ドイツ」

- 第9回講義 2021年10月9日（土）17時から18時まで  
富重純子（福岡大学）：グリムのメルヒェンにもとづく二、三の映画について
- 第10回講義 2021年10月23日（土）17時から18時まで  
小黒康正（九州大学）：平野啓一郎『マチネの終わりに』における「ドイツ」

■第11回講義 2021年11月6日(土)17時から18時まで  
堺雅志(福岡大学):カカーニエン・キツチュ  
——映画に描かれるオーストリア像——

第5弾 チーム「ドイツ」の新刊紹介

■第12回講義 2022年6月22日(水)17時から18時まで  
福元圭太(九州大学):『アポロン独和辞典第4版』(同学社、2022年3月)

■第13回講義 2022年7月6日(水)17時から18時まで  
武田利勝(九州大学):フリードリヒ・シュレーゲル『ルツィンデ 他三篇』(武田利勝訳、幻戯書房、2022年1月)

■第14回講義 2022年7月20日(水)17時から18時まで  
小黒康正(九州大学):ヘルタ・ミュラー『呼び出し』(小黒康正・高村俊典訳、三修社、2022年5月)

2022年7月20日の講義は当方が再び担当し、2009年にノーベル文学賞を受賞した『呼び出し』(1997年)について話をした。この第3長編では、「私は呼び出しを受けている」という告白とともに、朝の8時前、一人の女性が住まいを出る。1980年代のルーマニア、アパレル縫製工場で働く「私」は、国外逃亡の嫌疑をかけられたため、毎回10時きっかりにアルプ少佐の尋問に出頭しなければならない。アルプの事務所に向かう途中、「私」は路面電車に乗る。そこは、独裁政権下におかれた社会の縮図だ。物語内で流れる時間はおよそ2時間に過ぎない。決まった運行時間もなく走る路面電車こそ、想起の場にふさわしい。「私」はトラウマの中で新たな「ユリシーズ」を紡いでいく。

『呼び出し』刊行の際には作家の平野啓一郎氏からご推薦をいただき、邦訳刊行後には、複

数の新聞や雑誌で話題になった。いずれも本書の核心をつく見事な講評である。

- 1) 日本経済新聞、7月2日、書評、松永美穂氏(早稲田大学教授)
- 2) 北海道新聞、7月10日、書評、長山靖生氏(評論家)
- 3) 週刊読書人、7月23日、書評、大宮勤一郎氏(東京大学教授)
- 4) 図書新聞、7月30日、紹介、松永美穂氏(早稲田大学教授)
- 5) 本の雑誌、8月10日、書評、藤ふくろう氏(評論家)



現下の世界情勢を考えると、『呼び出し』が描く世界は私たちに決して無縁ではない。路面電車は木の葉のように「ざわざわと音を立てている」。こうして木の葉は次第に「言の葉」と化す。但し、「深い憂い」を伴う饒舌な「沈黙」としてだ。この作品はある意味で私たちの世界そのものだ。この作品が難解なのは、私たちが佇む世界があまりにも複雑で不可解だからではないか。

(おぐる やすまさ 会員、九州大学大学院人文科学研究院教授)

# 現代ドイツのフットワーク

---

小黒 康正

「男でも、首相になれるの?」、こんな質問がドイツでは子供たちから出る(2022年1月6日付け朝日新聞朝刊参照)。ドイツで16年間首相を務めたアンゲラ・メルケルは、2011年に起きた東日本大震災の後、すぐに脱原発に舵を切り、2015年には難民問題に積極的に対応し、EUで、否、世界の政治で極めて重要な役割を担ってきた。在職期間中は「世界で最も影響力のある女性」に選ばれ続けてきたことがその証左だ。2021年12月に新首相に選出されたオラフ・ショルツは、2022年6月に開かれる核兵器禁止条約締約国会議にオブザーバーとして参加することを早速表明し、世界中から注目された。欧州連合の欧州委員会が脱炭素化の一助として原発をグリーンな電源とみなそうとすると、同じドイツ語圏のオーストリアともども、ドイツは断固として「ナイン」と言う。そう言えば、新政権は閣僚16人をさっそく男女同数にした。つまり、ドイツでは「男でも大臣になれるのである」。

現代ドイツのフットワークは実に興味深い。音楽、現代アート、スポーツの分野でもドイツは世界の一步先を行く。1967年に設立された「ドイツ国際平和村」の活動、1985年に当時のヴァイツゼッカー大統領が行った演説、1990年に果たされたドイツ再統一などは、日本でも知られている。『ニューヨーク・タイムズ』によれば、ドイツは「世界一のリサイクル国」だ。実際、ドイツは地方自治体廃棄物のリサイクル率が2016年のデータでは67%と世界最高だった。ちなみに日本のリサイクル率は20%前後でかなり低い。現代ドイツはエコロジーを通じて人間の新しい生き方を問う。「ファスト風土」が蔓延し、「シャッター街」や「医療難民」などの問題

が深刻化している日本とは違い、ドイツでは「コンパクトシティ」が成功し(村上敦『ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか 近距離移動が地方都市を活性化する』、学芸出版社、2017年参照)、地方都市がどこでも元気だ。多くのドイツ人が「グリーン移動」を実践している結果であろう。大学教授、法律家、議員の多くが自転車で職場に向かう。現代ドイツのフットワークは実に軽い。

ドイツでは日本的なサービスを期待できないが、それはドイツ人が「無駄」にお金をかけないからだ。ドイツ人はお金をかけずに週末を過ごす。日本的な薄利多売はドイツ社会に馴染まない。そもそも消費税は19%だ。ドイツには、コンビニも、パチンコも、塾もない。ドイツでは教会の鐘の音が実によく響く。選挙カーを含め、街頭でマイクを使うことなど許されない。ドイツ人は静かでシンプルな生活を好む。しかし、大事なところでお金をしっかりとかける。有給休暇消化率100%ということもあり、年収がまずまずの家庭でもバカンスを取るのがドイツの常識だ(熊谷徹『ドイツ人はなぜ年290万円でも生活が「豊か」なのか』、青春出版社、2019年参照)。

社会生活では、交通公共機関に多額の公的資金が当てられる。日本のように地方で鉄道やバスが次々に廃線に追い込まれることはない(宇都宮浄人『地域公共交通の統合的政策 日欧比較からみえる新時代』、東洋経済新報社、2020年参照)。ノルトライン＝ヴェストファーレン州の事例を福岡の大学生に当てはめると、学費はほぼ無料、アクロスでも博多座でも格安で鑑賞でき、福岡県内では鉄道もバスも地下鉄も乗り放題、学生のフットワークは実に軽くなる。実は、学生ばかりではない。例えば、ミュンヘンやウィーンの事例

を福岡市に当てはめてみよう。約5万円の年間定期券を購入すると、1日約140円で、福岡市内ならびにその近郊で、鉄道もバスも地下鉄も乗り放題だ。勿論、交通弱者である老人や未成年者の場合はもっと安い。「医療難民」や「通学難民」の数は減り、交通事故も減り、CO<sub>2</sub>排出量も大幅に減る。現在、世界の自治体や大学は気候危機問題の象徴を「自動車の排ガス」の問題と捉え、「グリーン移動」を加速化させており、福岡市も「はじめようエコ移動」や「まち歩かんね 車減らさんね運動」を通じて公共交通機関や自転車・徒歩による移動を呼びかけているが、こうした運動はどれだけ福岡市民に浸透しているのであろうか。私たちがドイツ語圏から学ぶべきことは実はまだまだかなり多いのだ。

いささかドイツを褒めすぎたかもしれない。実際に現代ドイツも多くの問題や矛盾を抱え、時には迷走する。その一つが難民問題以降に極右勢力が台頭したことだ。だが、総じてドイツは世界の一步先を行く多様な挑戦を果敢に行っている。私たちは現代ドイツの様々なフットワークから目が離せない。そんな意識から、当方、本務校で講義「現代ドイツのフットワーク」を企画し、同じドイツ語圏のオーストリアにも目を向けながら、現代ドイツの挑戦を多角的に扱った。それは、ドイツ語圏を研究対象としている九州大学の同僚たちと、交通経済学の碩学である宇都宮浄人氏と作家の平野啓一郎という豪華ゲストが指南役となったオムニバス形式の講義だ。私自身がぜひお話を伺いたいと思う方々に声をかけたので、毎回講義に参加したのは言うまでもない。平野氏の回は公開講義にし、NHKからの取材も受けた。本会の会員も多数参加されたこともお伝えしておこう。「現代ドイツのフットワーク」、それはよく知られた国の知られざる新たな側面だ。ドイツとともに、私たちも新しいフットワークで未来に歩み出そう。

## 授業概要

科目名：九州大学大学院人文科学府「現代文化論C」

開講時期：2022年度前期月曜3限

講義題目：現代ドイツのフットワーク

講義日程：

1. 4月11日 小黒康正（九大人文）：導入
2. 4月18日 小黒康正（九大人文）：プロテストする国ドイツの「文化」論
3. 4月25日 A. シュヴァイツァー（九大人文）：ドイツの新たな文化政策 フンボルト・コレークをめぐって〔英語講義〕
4. 5月2日 東口豊（九大人文）：ドイツの映像作品を観る
5. 5月9日 西田紘子（九大芸工）：コロナ禍の音楽文化
6. 5月16日 今井宏昌（九大人文）：福岡の中のドイツ
7. 5月23日 小黒康正（九大人文）：「国家社会主義」か「国民社会主義」か Nationalsozialismus の訳語をめぐって
8. 5月30日 福元圭太（九大言文）：辞書編纂と翻訳一沖へ漕ぎ出す「舟を編む」―
9. 6月13日 武田利勝（九大人文）：広場が語るドイツの歴史
10. 6月20日 今井宏昌（九大人文）：現代ドイツの新右翼
11. 6月27日 宇都宮浄人（関西大学）：ドイツやオーストリアの交通政策とまちづくり
12. 7月4日 横田理博（九大人文）：ドイツの脱原発、またはマックス・ウェーバーの現代文化
13. 7月11日 平野啓一郎（作家）：公開講演 死と向き合う時、生は
14. 7月25日 小黒康正（九大人文）：ドイツ当世書生気質 ミュンヘン工科大学からの留学生との対談

（おぐる やすまさ 会員、九州大学大学院人文科学研究院教授）



〔講演後の平野啓一郎氏〕

## グリムのメルヒェンにもとづく二、三の映画について

富重 純子

「グリムのメルヒェン」の何が現代人の心を引きつけるのだろうか。長らくグリム童話の受容を決定づけてきたディズニーによるプリンセス・ストーリーの映画も、近年はかなり様子が変わってきたらしいが、ここではスペインの映画『ブランカニエベス』(2012年)とフランスの映画『大人のためのグリム童話 手をなくした少女』(2016年)を取り上げてみたい。両者とも、物語自体が独創的なものだが、それが特徴ある表現方法と結びついて、きわめて興味深い作品世界を作り出している。

パブロ・ベルヘル監督の『ブランカニエベス』は、「白雪姫」の物語に闘牛とフラメンコのモチーフを織り込んだ、モノクロームのサイレント映画で、音楽は付けられているがセリフはなく、字幕が挿入される。



映画『ブランカニエベス』ポスター

アントニオとカルメンは有名な闘牛士と美しいフラメンコ舞踊家の夫婦。「白雪姫」では王と妃であるものが、まずは、現代の花形的職業のふたりに置き換えられているということになる。冒頭、セビーヤ闘牛場に立つアントニオは順調に牛を倒していくが、最後にカメラのフラッシュに目が眩み、牛の角に突かれ倒れる。カルメンはショックで倒れ、赤ん坊を産み落として死ぬ。アントニオは下半身不随となり、担当看護師のエンカルナと結婚する。母と同じく

カルメンと名付けられた子どもは母方の祖母の手で育てられるが、祖母が亡くなり、父のもとに引き取られる。

継母エンカルナの支配下、カルメンは地下室をあてがわれ下働きをさせられる。これは「シンデレラ」の引用だろう。幽閉されている父アントニオとこっそり会って、闘牛の奥義を教わったりもしたが、エンカルナはやがて、アントニオを階段から突き落として殺す。エンカルナは葬儀の花を摘みに行くようカルメンに指示し、自分の愛人に、カルメンの後をつけて行って殺すよう命じる。花摘みの場面は「赤ずきん」をも連想させる。男はカルメンを川辺に追い詰め、溺れさせて殺す。カルメンはしかし、その後通りかかった小人の若者の救命処置で息を吹き返す。

この若者は小人闘牛士団の一員だった。カルメンは「ブランカニエベス(白雪姫)」と呼ばれることになり、巡業に同行するうち、闘牛士として闘牛場に立つことになる。若い娘と小人の闘牛士団は「ブランカニエベスと七人の闘牛士たち」として評判になる。この物語の展開は、「白雪姫」の物語をなぞりつつ、大きな逸脱でもある。小人闘牛士団は、団員のひとりが女性で、このひとは闘牛をしないし、団員の食事や衣服の世話をする役割である。グリムの「白雪姫」では、白雪姫が七人の小人たちに受け入れられるにあたって、彼らの衣食住の世話をすることが条件になっていた。映画ではこの役割はすでに他の女性によって担われており、カルメンは闘牛士の位置を占めるのである。

「ブランカニエベス」の評判を聞いた興行師がやってきて、カルメンは言われるがままに「独

占的に、永遠に」という契約をしてしまう。「ブランカニエベス」の一行はセビーヤの闘牛場に迎え入れられる。闘牛場に立ったカルメンは記憶を取り戻し、勝利を収めるが、観客席にいたエンカルナから渡された毒リングを齧り、倒れる。エンカルナはその場で犯人として追われる。担ぎ上げられ、太陽の光を受けて輝くばかりの姿で運ばれていくカルメンと暗がり闇に飲み込まれるように死ぬエンカルナは、明快な光と影の対照をなす。しかし映画は、白雪姫が勝利するグリムの「白雪姫」の結末とは異なる結末へと進んで行く。

場面は陰鬱な見世物テントの中となり、カルメンはガラスの棺に横たえられている。「白雪姫」においても、白雪姫はガラスの棺に入れられ、王子の嘆賞の眼差しを受ける存在だったが、それがここでは、金銭授受を伴う見世物になり、しかも「ブランカニエベス」は生涯にわたる契約によりその位置に縛られている。

カルメンは花形闘牛士となった。しかし支配の構造から逃れることはできない。現代において、もはや王はおらず、幸福を約束する力はどこにもないのだ。この映画において、ジェンダーの問題は主要なテーマのひとつであることはまちがいない。が、それを包含するかたちで、伝統的ジェンダー構造を含んだ伝統的社会が変化した現代において、「ブランカニエベス」が幸福へと目覚めることの困難が扱われていると言えよう。

セバスチャン・ローデンバック監督の『手をなくした少女』は「手なし娘」の物語にもとづき、監督自身

が「クリプトキノグラフィー」と呼ぶ独特の映像表現方法で作られたアニメの作品である。

悪魔に唆された父親に手を切られ、家を出た娘が、王と出会って結婚するが、悪魔の横槍で、子どもを連れて王宮を離れざるをえなくなる。ここまではグリムの「手なし娘」と映画『手をなくした少女』は同じ展開だが、この後が異なる。「手なし娘」では、娘は天使の庇護のもとに暮らす。王は長い旅をして娘を探し出し、みなで王宮に戻り、幸せになる。映画では、娘は川の女神の手助けがあるものの、自主独立の生活を送り、その生き生きとした様子がきわめて印象的に描かれる。そして娘は王との再会后、王宮に戻ることを拒む。グリムの「手なし娘」でも、父の家からの出立と夫の家からの出立と、支配から逃れるモチーフが二重になっているのだが、映画では最後に、娘、夫、子どもが三人で新天地を目指すことが示されて、自由と幸福の結びつきが強調されている。

別の話だから、と言えどもそれまでだが、「ブランカニエベス」が支配の構造から逃れられなかったのに対し、「手なし娘」が逃れることができたのは、どのような違いによるのか。メルヒエンを変奏し、ジェンダーの問題を扱いながら、「幸福」の可能性について思考するようわれわれを促すこの二つの作品は、メルヒエンの奥深さを豊かに示すものであると思う。

関心を持たれた方は、拙論文「グリムのメルヒエンにもとづく二つの映画について」（『福岡大学人文論叢』第53巻4号所収）もごらんください。

（とみしげじゅんこ 会員、福岡大学文学部  
ドイツ語学科教授）



映画『大人のためのグリム童話  
手をなくした少女』ポスター

## オーストリアにカンガルーはいない？

「カカーニエン・キッチュ——映像に描かれたオーストリア像——」

---

堺 雅志

栄光のカカーニエンを作り上げた功労者、皇妃エリーザベト・アマリエ・オイゲーニエ・フォン・エスターライヒ（旧姓フォン・ヴィッテルスバハ、Elisabeth Amalie Eugenie von Österreich/ von Wittelsbach、1837-98）は、オーストリアはもちろんのこと、日本でもいまだに人気の衰えない歴史的な形象です。1955年、オーストリア独立の年から三年かけて制作、公開された『シシー』三部作（エルンスト・マリシュカ監督）は、ドイツ語圏が誇るアイコン、ロミー・シュナイダー（Rosemarie „Romy“ Schneider、1938-82、当時17歳！）が主役を演じた映画で、結婚式を控えた朝に、シェーンブルン宮殿でロミー＝エリーザベトが、豊かな髪を揺らしながら窓際から振り向く姿は、フランツ・クサーファ・ヴィンターハルター（1805-73）による肖像画からそのまま歩み出てきたような印象を刻みました。

映画の第一部の終わり近く、シシーが動物たちを見たがる台詞があります。ウィーン動物園Tiergarten Schönbrunnの造営は、マリア・テレジア（1717-80）の夫、マリー・アントワネット（1755-93）の父、神聖ローマ皇帝フランツ1世（1708-65、妻と娘の方が有名です）の御代、1753年のことでした。四半世紀後の1779年にはすでに市民に開放された公園となりましたから、これは革命後の1793年に公開されたパリ動物園植物園よりも早く、おそらくは世界でもっとも早く成立した動物「公園」であったようです。

開かれた神聖ローマ皇帝から四代あと、事実上オーストリア帝国最後の皇帝になるフランツ・ヨーゼフ（1830-1916）の皇妃となったのが、エリーザベトでした。彼女こそ「カカーニ

エン」の礎を築いたソヴァージュ（野生児）でした。カカーニエンはラテン語ではカカニアのドイツ語形で国を表しますが、オーストリアを揶揄する名称としてこう名付けたのは哲学者にして軍人出身の作家ローベルト・ムージル（Robert Musil、1880-1942）です。彼の未完の大作『特性のない男』（1930-42）にこうあります。

ともかくこの滅亡したカカニアについては、なんと多くの奇妙なことがいえることか！たとえば帝王国の（Kaiserlich-königlich）と帝国にして王国の（Kaiserlich und königlich）とがそれである。K・KあるいはK・u・Kという二つの記号のうちいずれか一つが、この国の人と物とのすべてに冠せられていたが、それにもかかわらず、いかなる組織といかなる人間をK・Kと呼び、またいかなる組織といかなる人をK・u・Kと呼ぶべきか、その区別をつねに明確にしておくためには一種の秘術が必要だった。カカニアは、文書ではオーストリア・ハンガリー君主国と書かれていたが、口頭ではオーストリアと呼ばれていた。（加藤二郎訳、松籟社、第1巻第1部第8章）

カカニアないし、カカーニエンは、婚姻による拡大と戦争による割譲の歴史を繰り返してきたオーストリアの歴史の中では従って、オーストリア＝ハンガリー君主国成立の1867年から第一次世界大戦によって解体された1918年までの期間と厳密には規定されます。このムージル

の命名した別称であり蔑称は、こんにちも度々オーストリアを指して口端に上せられる名称です。「口頭ではオーストリア」と呼ばれる現在の国名はどこからきているのでしょうか。これはラテン語の「南風」を意味する *auster* と国を意味する接尾辞 *-ia* が結合したかたちです。いわば「南国」です。

ではなぜ南なのか。これは、*Austria* の記述がはじめてみられるコンラート 3 世 (1093-1152) の御代 (1138-52)、神聖ローマ帝国の版図では東南に位置していたこと、そして「南」の語源が正確には「東風」ないし「東南からの風」に由来していたからなのです。

このことばはそのまま英語化しますが、それが南半球の新々大陸オーストラリア「南方の国」に、形容詞化した英語 *austral* から転用されることとなります。オーストリアとオーストラリアは全然違うことをドイツ語圏をこよなく愛する私たちは強く主張したいのが常ですが、国名の語源には同様の出自が見られることを併せて知っておきたいものです。

さて、オーストリアの土産物屋に入ると、「オーストリアにカンガルーはいない」と書かれたTシャツが売られています。国名の語源が同じながら、オーストリアから見れば伝統の浅い新々大陸のオーストラリアの方が、戦後世界的に知名度が高くなってしまったことに対する自虐的なふるまいです。これは「カカーニエン」エピソードと並んで、オーストリアにしては珍しいことでしょう。なにしろオーストリアの気位には、名画『第三の男』(キャロル・リード監督、1949年) も『サウンド・オブ・ミュージック』(ロバート・ワイズ監督、1965年) も、そしてその元となった『菩提樹』(ヴォルフガン



「残念ながらオーストリアにカンガルーはいない」と書かれたTシャツ

グ・リーベンアイナー監督、1956年) すらも気に入らないほど、自国の描き方には厳しいところがあるからです。

けれどもほんとうにカンガルーはいないのでしょうか。さにあらず、現在のウィーン動物園には元気に跳び回るカンガルーの家族が住んでいます。戦後の観光立国としての面目躍如といったところでしょうか。

(さかいまさし 会員、福岡大学人文学部  
ドイツ語学科教授)



## 『ルツィンデ』と「文芸の共和国」

---

武田 利勝

〈ルリユール叢書〉を御存知でしょうか。気鋭の文芸出版社、幻戯書房が2019年から刊行している海外文学シリーズで、2022年の夏現在、そのラインナップはすでに30点以上、世界各国の知られざる傑作から、知られてはいるが新訳の望まれる古典まで多岐にわたり……云々と私なぞが多弁を弄するよりも、このとても意欲的なプロジェクトの意義については、本叢書「発刊の言」から直接引用した方が圧倒的に伝わり易いはず——「*Reliure* 〈ルリユール〉は「製本、装丁」を意味する言葉です。ルリユール叢書は、全集として閉じることのない世界文学叢書を目指し、多種多様な作品を綴りながら、文学の精神を紐解いていきます」——あるいは、こうもあります——「〈ルリユール叢書〉は、どこかの書棚でよき隣人として一所に集う——私たち人間が希望しながらも容易に実現しえない、異文化・異言語・異人同士が寛容と友愛で結びあうユートピアのような——〈文芸の共和国〉を目指します」。

こうした「文芸の共和国」の一員にこのたびフリードリヒ・シュレーゲルが長編小説『ルツィンデ』とともに迎えられたことは、訳者たる私にとってはもちろん、原作者シュレーゲル自身にとってもまた、望外の喜びに違いありません。とりわけ、彼がその批評的対話篇『文学についての対話』（1800年）冒頭に書いた次の一節を想起せよばなおのことです（上の「発刊の言」とお読み比べにしてください）——「文学を愛するすべての人々を、文学は解きたい絆で親しく結び合わせる。たとえ普段はそれぞれの人生においてまったく違ったものを求め、一方がこの上なく大切に思っているものを他方

は軽視して、互いに誤解しあい、互いに耳傾けることなく、永遠に異質なもの同士で終わるにせよ、文学という領域においては、人々はより高次の魔力によって平和のうちに一体をなす。各々のミューズは他を探し求め、見つけ出す。こうして文学のあらゆる流れは合わさって、普遍の大海原へと注ぎいるのである」。

COVID-19を巡る大騒動が始まって以来、世界中が分断と混乱の真っ只中にあるように（少なくとも私の眼には）見えます。仮に現代の私たちがそんなディストピアの状況にあるとしたら、文芸的共和国というユートピアが残されていることに希望を感じざるをえませんし、しかもこの「どこにもない場所」が、シュレーゲルの活躍した後200年以上の時を経てなおも変わらず「そこにある」ことに、深い感慨を覚えもします。

もっとも、本作『ルツィンデ』が晴れて共和国入りを果たすまでの道程には、大いなる紆余曲折がありました。その詳細は本書の解題をご覧頂くとして（つまり、さりげない宣伝です）、ここでは20世紀末に活躍した米国の文学研究者、ポール・ド・マンの言葉を引くにとどめましょう——「こう言ってもほとんど誇張にはならないだろうと思いますが〔…〕、ゲルマニスティクという学問分野全体が発展してきたのは、ひとえにフリードリヒ・シュレーゲルが巧みに避けられてきたからにはほかなりません。ドイツ文学を——深刻に——扱うアカデミックな学問分野の考えかた全体に対して、シュレーゲルと『ルツィンデ』が異議を申し立てているにもかかわらず、こうした異議が回避されてきたのです」（『美学イデオロギー』上野成利訳、平

凡社ライブラリー、396頁以降)。

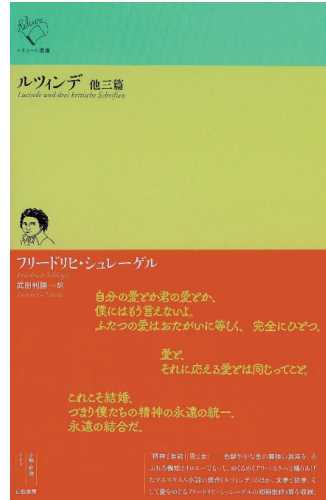
毀誉褒貶甚だしい作者とその作品、端的に言ってドイツ文学史上最大の問題児。これを丁寧に黙殺するか、でなければ逆に、生真面目かつ深刻な文学研究のメスでもって整形ないしは去勢を施し、ドイツの誇るロマン的精神の古典的著作がずらりと並ぶ文学の神殿の一角に奉納すること。ド・マンも指摘するように、これが従来のゲルマニスティクの営みでした。排除か、矯正か。こんなやり方は、実際の共和国ならともかく、文芸の共和国にはまったく相応しくありません。ともかく、『ルツィンデ』はどのような意味で問題児なのでしょう。

第一に本書は、ミクロレベルで読み手を苛立たせます。晦渋さと軽薄さの入り混じる不思議な文体を辿りつつ、深刻にその「意味」を探ろうとする読者を嘲笑うかのように、『ルツィンデ』は読者の手をすり抜けたかと思うと、今度は別の場所に現れて、何やら学術的な問いを唐突に投げつけてきます。第二に、この小説はいわゆる物語性とは無縁です。断片的なエピソードが連想的に繋ぎ合わされていますが、その連関を辿ったところで、どこにも行き着きはしません。その意味でもまた、読者を苛立たせる小説です。なにせ訳者が言うことですから、間違いありません。読者は苛立ちのあまり、こう叫ぶはず——「こんなの、小説じゃない！」

さて、本書には副題として、「ある小説」という一語が付されています。確かにこのこと自体は、当時としては珍しいことではありません。がしかし『ルツィンデ』の場合、話は別です。『ルツィンデ』はこの副題とともに、読者にこう問いかけ、挑発しているのです——あなたが小

説だと思っているものって何ですか？それは本当に小説ですか？そもそも小説って何ですか？ちなみに私は、あなたが何と言おうと小説ですよ、なぜって、私自身がそう称しているのだから！——と。こうして一部の辛抱強い読者はいつのまにか、「小説」って何だろう？という問いが自分の手に投げ渡されていることに気づかされるのです。そして、こうした根源的な問いをめぐる無為な思弁のなかから、さらなる問いと応答が次々と引き出されてくるとしたら、それこそ、「文芸の共和国」のどこかに存在するはずの国民議会で展開されるにふさわしい、そんな議論になるのではないのでしょうか。とすると『ルツィンデ』は、そのような活気あふれる共和国にとって不可欠の問題児と言えるかもしれません。

(たけだ としかつ 会員、九州大学大学院人文科学研究院准教授)



フリードリヒ・シュレーゲル (武田利勝訳)  
『ルツィンデ他三篇』幻戯書房、2022年

# 『アポロン独和辞典 第4版』

福元 圭太

2021年4月『アポロン独和辞典』第4版が上梓されました。三浦しおんの『舟を編む』さながら、アポロンのメンバーも一言一句に拘る「辞書屋」です。編集者は偏執者でもあります。

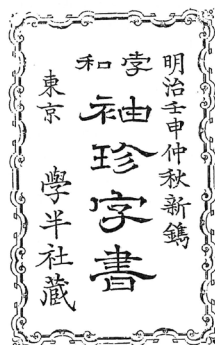
吉村昭は小説『冬の鷹』で豊前中津の前野良沢を主人公に据え、『解体新書』（1774年）編纂の経緯を描きました。良沢は辞書というものの存在を知りませんでした。「デキショナールとは、言葉と言葉を橋渡しする役目をもっているのでござる」と同僚が言うと、良沢は眼を輝かせ「それは便利なものでございますな。そのようなものが日本にもあれば、どれほど異国語をきわめる上で助かるかわかりませぬ」と答えています。日本にはすでに平安末期以来漢和辞典がありました。江戸初期に『日葡辞書』（1603年）が、江戸中期から後期に『波留麻和解』、『訳鍵』、『和蘭字彙』などの蘭日辞書が、そして幕末に英和・和英が出来ます。仏語、露語、英語等の学習は文化年間（1804-1818年）から始まっていますが、ドイツ語はそれらに遅れること50年、ビスマルク第2帝政の1871年から一挙に移入されました。『独逸典典字類』（1871年）『和訳独逸辞典』（1872年）『字和袖珍字書』（1872年）『袖珍字語訳囊』（1872年）『和訳独逸辞書』（1872年）『独和字典』（1873年）、計6冊が相次いで刊行さ

れ、仏和の3冊を超えました。

辞書は採録語彙数が多ければよいわけではありません。『オックスフォード英語辞典』の見出し語数は約30万。その手本となったグリム兄弟の『ドイツ語辞典』は122年をかけた大事業ですが、見出し語数は前者と同じ約30万。これらの巨大辞書はオンライン化され、「ポータブル」にはなりましたが、30万でも英語・独語の全語彙をカバーしているわけではありません。またグリムの辞書には1960年以降の新語は採用されていないのです。

問題は語彙数だけではありません。そもそも辞書の語義は原則として明示的であり、含意や象徴的意味は極めて限定的にししか書けません。例えばRose「ばら」には「美・愛・高貴・芳香・危険な誘惑」等の含意がありますが、シンボル辞典ではないのでそこまでは書きません。日本の「桜」の語義に「春・無常・潔さ・大和心」等を書かないのと同様です。

もっと根本的な問題は別にあります。そもそも言語は世界を十分に掬い取っているのでしょうか。言語は世界を十分に分節しているのでしょうか。Mensch「人間」、Liebe「愛」、Tod「死」と訳語をつけても、それらは何を表すのでしょうか。blauは「青い」ですが、私の青色とあなたの青色は同じ色で



Deutsch und Japanisch.	
A.	
Kal. m.	ウキ 楳
Kaisang. m.	ウキヨム 楳垣
Kaisung. n.	ウキヨリ 楳垣
Kar. m.	ウラ 藁 [ロノ 藁内]
Kat. n.	ウロキ 藁 [ウロキ 藁]
Kalg. n.	ウロキ 藁 [ウロキ 藁]
Kl. ad.	ウラ 藁 [ウロキ 藁]
— und gr.	ウラ 藁 [ウロキ 藁]
auf und —.	ウラ 藁 [ウロキ 藁]
Kat. —.	ウロキ 藁 [ウロキ 藁]
Kisubetich. n.	ウロキ 藁 [ウロキ 藁]
Kisiben. v. n. gr.	ウロキ 藁 [ウロキ 藁]
Kisibenung. f. gr.	ウロキ 藁 [ウロキ 藁]
Kisibigen. v. n. gr.	ウロキ 藁 [ウロキ 藁]
— v. r.	ウロキ 藁 [ウロキ 藁]
Kisibigung. f.	ウロキ 藁 [ウロキ 藁]
Kisibeten. v. n. gr.	ウロキ 藁 [ウロキ 藁]
— v. r.	ウロキ 藁 [ウロキ 藁]

『字和袖珍字書』（1872年，明治5年，学半社；1981年復刻版，三修社）

しょうか。「現実世界の認識の体系」は「言葉を構成する音の体系」の差異、つまり「差異の体系」でしかありません。つまり世界は言葉によって差異化されているだけで、言葉が世界の実体をクリアに分けており、それを集積した辞書には世界が詰まっている、という風には考えられないのです。さらには、ドイツ語と日本語には世界の分節の仕方に差があります。例えばドイツ語の形容詞 *gemütlich* は日本語に訳しがたい語です。逆に和独辞典も「sabi 寂」や「wabi 侘び」の語義に苦心しています。

実際に辞書を編纂すると「言語酔い」をおこします。ドイツ語が表音文字30個の順列組み合わせにしか見えません。日本語訳語も続けて読むと脈絡がなく、「見出し語、キーワード、刺し傷、窒素、飛び散る、家の周りを雪が舞っていた、異父（異母）兄弟、長靴、（去勢していない）雄牛、鉛筆、参事会、シュティフター（作家名）」等となり、シュールな詩に見えます。中島敦に「文字禍」という佳篇があります。古代アッシリアの老博士が文字の霊に悩まされる話。この文字の霊は「野鼠のやうに仔を産んで殖え」やがては「人間ノ眼ヲ喰ヒ」あらし、咳やくしゃみやしゃっくりを生じせしめます。にわかには頭髪が薄くなり、顎がはずれ易くもなるそうで「文字ノ害タル、人間ノ頭脳ヲ犯シ、精神ヲ麻痺セシムルニ至ツテ、スナハチ極マル」とのこと。私もこの症状を得ました。特に眼精疲労は甚だしく、網膜剥離の手前まで行きました。

言語が世界を掬い取っておらず、しかも言語間で翻訳不能な語彙があり、採録語彙数も限られている上、「文字禍」に罹ってまで、なぜ辞書を作るのでしょうか。それは言語が一したがって文化が一異なる人間同士の知的コミュニケーションに、辞書作りによって僅かながらでも貢献するためだとお答えしましょう。「デキショナールとは、言葉と言葉を橋渡しする役目をもって」いるのですから。辞書作りは完成することのないプロジェクトです。それに偏執する

のが編集者なのです。

最後に最新『アポロン』のご紹介。見出し語は約5万語。見出し語選択から徹底的な見直しを行いました。アポロンのモットーは「サッと引く、パッとわかる」。明解にして必要十分な記述を心がけました。アポロンはまた百科事典的性格をも備えています。地理・歴史・人物などの固有名詞、また動植物名や鉱物・元素なども徹底的に調べて記述。医学・音楽やキリスト教用語、コンピュータ用語にスポーツや料理用語、珍しいところではトランプ（といってもあの人ではない）用語まで、使用範疇を特記。文体についても文語・雅語・口語・俗語・方言等を細かく記しています。新語採用にも意欲的で今回は *Coronakrise* (*Corona-Krise*) (コロナ危機)、*liken* (SNSで「いいね」ボタンをクリックする)、*posten* (コメントなどをネット上に投稿する)、*E-Sport*、*Hashtag* 等を採用。特に注意したのは差別語への注記とジェンダーやLGBTQへの配慮です。例えば *Zigeuner* には「差別語とみなされるため *Sinti und Roma* 「シンティーとロマ」を用いるほうが好ましい」、*Schmarotzer* には「ナチス用語とみなされることがあるため慎重に用いること」というメモを付しています。また例句例文から男性優位を表すもの、ミソジニアス（女性嫌悪的）・ホモフォビア（同性愛嫌悪）なもの、ルッキズムなどを考えられうる限りで排除、ジェンダーフリー化し、*Student* に対する *Studentin* のような女性形も極力採用しました。ローマ教皇 *Papst* に関し伝説上の女性教皇ヨハンナ、つまり *Päpstin* にも言及しました。付録の地図や年表類も充実。ぎりぎりメルケルの退陣やシオルツの就任まで採録し、福祉・環境用語に加えてご要望の多かった音楽用語を復活させました。ぜひ手に取って「サッと引く、パッとわかる」を実感してください。

(ふくもと けいた 会員、九州大学大学院言語文化研究院教授)

# アポロン 独和辞典

第4版 新発売!

「時代とともに歩む」  
究極のドイツ語学習辞典!

根本・恒吉・成田・福元・重竹・堺・嶋崎 [ 共編 ]

- ▶ 実用に十分な5万語を厳選、「旬」のドイツ語を大幅増補
- ▶ 学習段階に応じ見出し語を5段階表示、CEFRレベルも併記
- ▶ 「読む・書く・話す」を強力に支援
- ▶ 枠囲み例文の100例文に、韻律の立体表記を採用
- ▶ 上記100例文や「日常会話」「発音について」等にも音声を用意
- ▶ ドイツが見える「ミニ情報」をアポロンとアルテミスの会話調に



B6判・1864頁・箱入り・2色刷  
定価 本体 4,200 円 (税別)

巻末付録  
和独の部 / 日常会話 / メール・手紙の書き方 / 音楽用語 / 環境用語 / 福祉用語 / 建築様式 / ドイツの言語・政治機構・歴史 / ヨーロッパ連合と欧州共通通貨ユーロ / 発音について / 最新の正書法のポイント / 文法表 / 動詞変化表



同学社

〒112-0005 東京都文京区水道 1-10-7

Tel 03-3816-7011 Fax 03-3816-7044 <https://www.dogakusha.co.jp/>

## 西日本日独協会ドイツ語教室ご案内

和やかな雰囲気，身につくドイツ語!

非会員の方にもぜひお勧めください。

レベル (CEFR: 欧州共通参照枠) に合わせた7クラスを開講。

ネイティブ講師担当 (2022年度オンラインで実施)

- ・ A1 (入門) : 木曜日18:45-20:15
- ・ A2 (基礎) : 木曜日20:15-21:45
- ・ B1 (初級) : 水曜日18:45-20:15
- ・ B2 (中級) : 水曜日20:15-21:45
- ・ C1 (上級) : 金曜日20:15-21:45

受講料 (別途教科書代がかかります。)

春・秋学期開講: 会員・学生20,000円, 一般23,000円

(2022年11月から秋学期授業後半のみ受講の場合:)

会員・学生10,000円, 一般11,500円)

詳しくは教室ウェブサイトをご覧ください。



日本人講師による「初歩」, 「基礎総合」クラスも!



## ◆新入会員自己紹介

吉富 惟亮

私は福岡大学人文学部ドイツ語学科出身で、3年次(2019/20年)にイェーナに1年間留学し、卒業後もドイツ語に触れたいということで先生方に勧められて入会しました。留学は私にとって素晴らしい思い出と経験になりましたが、コロナ禍直前の帰国以来、気づけば3年近くの年月が過ぎ、様々な環境も変わってしまいました。いつかまた友人たちと Federweißer を飲み、Mett を食べられる日が来ればいいなあと思っています。お酒と猫が好きで、最近は歌舞伎鑑賞を始めました。よろしくお願ひします。

(よしとみただすけ)

## ◆会員より

私なりの関わり方

川上 達也

先日、映画「マダム・イン・ニューヨーク」を観た。英語が話せない主人公がニューヨーク

で右往左往するシーンの時、留学時の自分と重なる部分に懐かしさを感じ、遠い第二の故郷で過ごす旧友を想いながら今この文を綴っている。留学時は心から語学が楽しめた時だった。そして何よりもいつも助けてくれるドイツ人の友達がいる、人の温かみを感じた。その時の友達は私の一生の財産である。就活では当初は「ドイツ語を使う機会」を軸に道を模索したが、可能性・リスクも考慮しなければならない。悩んだ結果、出した答えが世界史教員として歴史を子どもたちに伝えるという形で「ドイツ」に関わるというものだった。何か伝えたいことの一部でも生徒の誰かに響いていたらという思いで、海外の話を授業中にすることがある。将来留学したい、ドイツに行ってみたくといった言葉が生徒から聞いた時は、教員になってよかったと思う瞬間だ。将来について考える時期にドイツで人の温かみを感じることができた私は、正直幸せ者だ。ドイツをはじめ海外の歴史・文化などについて生徒に興味を持ってもらい、自らも教員として成長する。これからも私なりにドイツと関わっていきたい。

(かわかみ たつや)



RESTAURANT  
ZUR STADT MAINZ

シュタットマインツ  
TEL. 070-8385-0774  
福岡県福岡市中央区白金1-15-7ダイアパレス白金1F  
[営業時間]  
11:00 ~ 23:00  
※火曜日のみ / ランチ休み、17:00 ~ 営業  
☞ 定休日 = 不定休 ☞

ゆったり空間で  
ドイツの美味を堪能 ...  
素材にこだわった  
Deutsches Essen



ドイツビール、こだわりの厳選素材や料理を取り揃え、  
皆様のお越しを、心よりお待ちしております。

## I. 2021年度会員動向

- (1) 2021 年度入会個人会員 2 名
- (2) 2021 年度退会個人会員 12 名
- (3) 2021 年度末在籍会員  
名誉会員：5 名  
法人会員：3 法人  
個人会員：115 名（一般 82 名、家族 3 名、青年 20 名、学生 4 名、法人指名 6 名）

## II. 2021年度活動報告

### 1. 諸会議

- (1) 2021 年度定期総会  
2021 年度定期総会 2021 年 4 月 18 日（日）～ 25 日（日） メール会議、議案書のうち、以下の修正を加えて可決  
\* 総会資料  
・ 3 ページ：例会「暑気払い」の日時を「2019.8.22（土）→ 2020.8.22（土）」に修正  
・ 6 ページ：3 号議案の 2 行目「2020 年度活動計画案→ 2021 年度活動計画案」に修正  
\* 2020 年度決算報告書  
・ 収入の表と支出の表 「仮決算を決算」に修正  
・ 収入 事業費 今季前受金 「決算 0」を「766,780」に修正  
・ 同 同 春季授業料 「決算 831,940」を「65,160」に修正  
・ 支出の表 「前年予算比」を「当年予算比」に修正
- (2) 理事会  
第 1 回理事会 2022 年 3 月 20 日（日） オンライン会議  
決議：2022 年度定期総会（本会）議案について

### 2. 2021年度例会等の諸行事報告

対面での例会はすべて中止になった。

オンライン企画：会員ならびにドイツ語講座受講者、バイエルン独日協会会員限定の講義

企画立案：企画委員会委員長 小黒康正 なお、第一弾は 2020.12.12（土）、19（土）、26（土）

★第 2 弾：近現代ドイツにおける「女性」

■第 4 回講義 4 月 29 日（祝）17 時から 18 時まで

小黒康正（九州大学）：「水の女」の別れと出会い 名匠ベッツォルト監督の最新映画『水を抱く女』について

■第5回講義 5月15日(土) 17時から18時まで  
武田利勝(九州大学):「マダム・ルシファー」と呼ばれた女 ——カロリーネ・シュレーゲルの  
生き方

★第3弾:近代ドイツの〈フォルク〉

■第6回講義 7月10日(土) 17時から18時まで  
田口武史(福岡大学):18世紀ドイツの「オリムピック」

■第7回講義 7月24日(土) 17時から18時まで  
須藤秀平(福岡大学):ドイツ人のアイデンティティと「国民」の文学

■第8回講義 8月7日(土) 17時から18時まで  
小黒康正(九州大学):民衆メルヒェンと創作メルヒェン

★第4弾:映像の中の「ドイツ」

■第9回講義 10月9日(土) 17時から18時まで  
富重純子(福岡大学):グリムのメルヒェンにもとづく二、三の映画について

■第10回講義 10月23日(土) 17時から18時まで  
小黒康正(九州大学):平野啓一郎『マチネの終わりに』における「ドイツ」

■第11回講義 11月6日(土) 17時から18時まで  
堺雅志(福岡大学):カカーニエン・キツチュ——映画に描かれるオーストリア像——

### 3. 委員会活動

(1) 年報45号発行 2021年10月20日

(2) ドイツ語教室

春期:受講者 34名

秋期:受講者 27名

(3) 2021年度ユース委員会活動報告

■JG-Youth 定例会議

月に一度、ZOOMを用いてオンライン会議を行いました。

### 4. 後援

■九州ドイツ語暗誦コンテスト 2021年 Deutschsprachiger Rezitationswettbewerb in Kyushu  
2021～動画による発表～ テーマ:deutsch?!「ドイツ的」って?!

### 5. 協力

特になし

### 6. その他

特になし



### Ⅲ. 2021年度協会収支決算報告、留学生基金収支決算報告および会計監査報告 — 2021年4月1日～2022年3月31日 —

#### 1. 2021年度協会会計収支決算

##### (1) 【収入】（金額単位：円）

費目	項目	予算	決算	予算比
前年度繰越金		1,272,556	1,272,556	0
運営費	個人会員	430,000	366,200	-63,800
	法人会員	100,000	156,000	56,000
	年報広告費	100,000	145,000	45,000
	寄付	0	0	0
	雑収入	44	1,016	972
	運営費計	630,044	688,216	58,172
活動費	例会等行事	500,000	0	-500,000
事業費 (ドイツ語教室)	今期前受金	698,060	698,060	0
	春期受講料	49,340	0	-49,340
	秋期受講料	700,000	540,500	-159,500
	次年度前受金	600,000	475,500	-124,500
	事業費計	2,047,400	1,714,060	-333,340
	合計	4,450,000	3,674,832	-775,168

##### (2) 【支出】

費目	項目	予算	決算	予算比
運営費	事務所家賃	240,000	240,000	0
	光熱・水道費	60,000	52,499	-7,501
	電話代	90,000	81,544	-8,446
	インターネット	10,000	5,808	-4,192
	人件費	300,000	235,000	-65,000
	事務経費	40,000	7,129	-32,022
	通信・印刷費	70,000	51,143	-18,857
	会議費	0	0	0
	渉外費	30,000	30,480	480
	旅費交通費	30,000	0	-30,000
	ユース活動支援費	20,000	0	-20,000
	年報発行費	180,000	132,000	-48,000
	雑費	10,000	2,805	-7,195
予備費	50,000	0	-50,000	
	運営費計	1,130,000	839,267	-290,733
活動費	例会等行事	500,000	0	-500,000
事業費 (ドイツ語教室)	春期教室経費	700,000	631,200	-68,800
	秋期教室経費	700,000	550,300	-149,700
	事業費計	1,400,000	1,181,500	-218,500
	合計	3,030,000	2,020,767	-1,009,233

##### 【決算（総括）】（単位：円）

	収入	支出	差額
繰越金	1,272,556	0	1,272,556
運営費	668,216	839,267	-151,051
活動費	0	0	0
事業費	1,714,060	1,181,500	532,560
合計	3,674,832	2,020,767	1,654,065

繰越金 1,654,065

注：この繰越金の中には、ドイツ語教室の次年度春期受講料前受金(475,500円)が含まれる。

(3) 2021年度 留学生基金 収支 — 2021年4月1日～2022年3月31日 —

2021年度は、2020年度に引き続き12月例会（クリスマス会）が開催されなかったため、留学生招待のための出費（支出）と、会場での募金（収入）がなく、留学生基金に動きはありませんでした。現状に関してははしたがって、年報第44号30頁上段のままであることをご報告いたします。

2021年度西日本日独協会会計および留学生基金監査報告書

西日本日独協会  
会長 岡嶋 泰一郎 殿

2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）の西日本日独協会会計および留学生基金について、諸帳簿、収支決算書、預金通帳および関係資料に基づき監査した結果、その内容が適正かつ経理事務が正確であることを報告します。

2022年4月8日  
監事 藤野 成爾 印

## IV. 2022年度活動計画

### 1. 諸会議

- (1) 総会 2022年度定期総会 2022年4月16日（土）～23日（土）メール会議
- (2) 理事会 必要時に随時招集 協会事務所または例会会場にて
- (3) 全国日独協会連合会総会 詳細未定
- (4) 日独ユースネットワーク総会 詳細未定

### 2. 例会等の行事

例会・クリスマス会等が実施可能な状況になり次第、計画を立ち上げる。

- ・オンラインの催しは、今後も状況次第では計画する予定。
- ・密にならない「野外活動」の可能性を探る。
- ・クリスマス会用の会場はKKR博多をおさえた（12月15日（木））。

### 3. 委員会活動および事務局

- (1) 年報編集 2022.6.以降 年報第46号編集の予定  
会誌の発行時期を当面9月とする。  
個人広告 1/2頁 3,000円 1/4頁 5,000円
- (2) ドイツ語教室  
■ドイツ語講座授業料の値上げ  
受講料現行  
一般：21,000円（1,750/90分×12回）、学生・会員：19,000円（1,583.33/90分×12回）  
受講料改定後  
一般：23,000円（1回200円弱値上げ）、学生・会員：20,000円（同85円弱値上げ）

講師料現行

半期：108,000 円 (9,000 円 /90 分 ×12 回 /1 講座)

講師料改定後

半期：120,000 円 (受講者総数 40 名超の場合のみ、単価 1,000 円上乘せ。)

(現在 5 講座開講。講師料には上記のほか交通費、オンライン環境構築経費が発生。日本人講師の教室は、これまで受講者の受講料枠内での手当にて開講しており、ほぼ無償ボランティア。)

講師：児島裕哲、本田和親 (協会事務所)、マーティン・シュトロートホフ (オンライン授業) ー

予定：受講者の動向によってクラスの閉講もありうる。

2022 年度春期 2022.4 ~ 2022.7 2022 年度秋期 2022.10 ~ 2023.1

- (3) 事務局局員の勤務：原則として金曜日 12 時~15 時とし、繁忙月 (3、4、9 月等) は状況に応じ火曜日にも勤務する。事務局宛メールは同時に事務局員宅にも着信する。

#### 4. 共催・後援・支援

##### (1) 後援

2022.4.6. 19:00 (予定) カンタータプロジェクト 2022 (会員：小沼和夫氏が企画し、指揮するバッハのカンタータ演奏会・なみきホール)

2022.7.3. ドイツ語スピーチコンテスト (ホルスト先生、ゴツィック先生たちが主催されます)

2022.7.11. 作家平野啓一郎氏公開講演「死と向き合う時、生は (仮題)」

## V. 2022年度協会会計収支予算

— 2022年4月1日~2023年3月31日 —

### 1. 【収入】 (金額単位：円)

費 目	項 目	前年度		2022年度	
		予 算	決 算	予 算	前年予算比
前年度繰越金		1,272,556	1,272,556	1,178,565	-93,991
運営費	個人会員	430,000	366,200	350,000	-80,000
	法人会員	100,000	156,000	100,000	0
	年報広告費	100,000	145,000	100,000	0
	寄 付	0	20,000	0	0
	雑収入	44	1,016	35	-9
	運営費計	630,044	688,216	550,035	-80,009
活動費	例会等行事	500,000	0	500,000	0
事業費 (ドイツ語教室)	今期前受金	698,060	698,060	475,500	-222,560
	春期受講料	49,340	0	300,000	250,660
	秋期受講料	700,000	540,500	650,000	-50,000
	次年度前受金	600,000	475,500	450,000	-150,000
	事業費計	2,047,400	1,714,060	1,875,500	-171,900
合 計		4,450,000	3,674,832	4,104,100	-345,900

\* 前年度繰越金はドイツ語教室の前受金を差し引いて計上しております。

## 2.【支出】（金額単位：円）

費 目	項 目	前年度		2022年度	
		予 算	決 算	予 算	前年予算比
運営費	事務所家賃	240,000	240,000	240,000	0
	光熱・水道費	60,000	52,499	60,000	0
	電話代	90,000	81,554	90,000	0
	インターネット	10,000	5,808	10,000	0
	人件費	300,000	235,000	300,000	0
	事務経費	40,000	7,978	20,000	-20,000
	通信・印刷費	70,000	51,143	70,000	0
	会議費	0	0	0	0
	渉外費	30,000	30,480	30,000	0
	旅費交通費	30,000	0	30,000	0
	ユース活動支援費	20,000	0	20,000	0
	年報発行費	180,000	132,000	150,000	-30,000
	雑費	10,000	2,805	10,000	0
予備費	50,000	0	50,000	0	
	運営費計	1,130,000	839,267	1,080,000	-50,000
活動費	例会等行事	500,000	0	500,000	0
事業費 (ドイツ語教室)	春期教室経費	700,000	631,200	700,000	0
	秋期教室経費	700,000	550,300	650,000	-50,000
	事業費計	1,400,000	1,181,500	1,350,000	-50,000
合 計		3,030,000	2,020,768	2,930,000	-100,000

### 【予算（総括）】（単位：円）

	収 入	支 出	差 額	
繰越金	1,178,565	0	1,178,565	
運営費	550,035	1,080,000	-529,965	
活動費	500,000	500,000	0	
事業費	1,875,500	1,350,000	525,500	
合 計	4,104,100	2,930,000	1,174,100	繰越金 1,174,100

注：この繰越金の中には、ドイツ語教室の次年度春期受講料前受金(450,000円)が含まれる。

### ■会費の減額について

昨 2021 年度はコロナウイルスの感染拡大の影響で、会費の 3 分の 1 を減額することとなりました（端数は切り捨て）。今年度 2022 年度も状況が見通せないため、それを踏襲いたします。

年会費に関連する会費細則（抜粋）は以下の通りとなっております：

- 個人会員の年会費は以下の通りとする。
  - 一般会員 6,000 円
  - 家族会員 3,000 円
  - 青年会員 4,000 円
  - 学生会員 1,000 円
- 法人会員の年会費は 1 口 20,000 円 1 口以上、法人指名会員は無料

今年度も特別措置で、以下の会費といたします。

- 個人会員の年会費
  - 一般会員 ~~6,000~~ → 4,000 円
  - 家族会員 ~~3,000~~ → 2,000 円
  - 青年会員 ~~4,000~~ → 2,600 円
  - 学生会員 ~~1,000~~ → 700 円
- 法人会員の年会費は 1 口 ~~20,000~~ → 13,000 円 1 口以上、法人指名会員は無料

## ● 2022年度役員等名簿

(敬称略)

### 1. 名誉職

顧問 池田紘一 九州大学名誉教授

### 2. 役員

会長 岡嶋泰一郎 国立病院機構小倉医療センター名誉院長、社会保険仲原病院顧問

副会長 小黒康正 九州大学大学院人文科学研究院教授

宮崎亮 公益社団法人福岡医療団千鳥橋病院 外科医

事務局長 福元圭太 九州大学大学院言語文化研究院教授

理事 荒木啓子、緒方愛実、加藤元也、マーレン・ゴツィック、堺雅志、

佐田正之、田口武史、藤真理、中村直樹、船津邦比古、

スウェン・ホルスト、御手洗淳、村上康子、葉照子

監事 藤野成爾、富重純子

### 3. 委員会 (委員長○印、および委員)

企画委員会 ○小黒康正、荒木啓子、岡嶋美佐子、加藤元也、松野正邦、村上康子、  
山崎勝幸、葉照子

年報編集委員会 ○田口武史、富重純子、藤真理、中村直樹、池田奈央

ドイツ語教室委員会 ○堺雅志、児島裕哲、マーティン・シュトロートホフ、平松智久、  
本田和親

日独ユース委員会 ○緒方愛実、マーレン・ゴツィック、田野武夫、平松智久、森光一郎

### 4. 事務局

福元圭太 (事務局長)、中村直樹 (Web-master)、喜多村由布子 (事務局員)

同人誌・会報・機関誌、  
小説集、歌集、句集、自分史などの  
自費出版物を編集発行します。

いま、いろいろな種を時へ。

●

言花をもっと本が、一冊でも多く集めよう。  
人々に、色と薫りを運ぶよう。

●

言花があってもいい。甘い蜜なものを。  
毒があってもいい。甘い蜜なものを。  
一掴みの文章。一握りの作家。  
実をなす季節を焼いているものを。  
小さくても雄々しく咲いているものを。

●

もはや、「言葉」では、満足できない。  
言花

花書院  
図書出版

〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9番2号  
TEL.092-526-0287 FAX.092-524-4411

城島印刷株式会社 〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9番6号  
TEL.092-531-7102 FAX.092-524-4411

## ● 西日本日独協会会則

### 〈名称及び事務局〉

第1条 本会は、西日本日独協会と称する。

第2条 本会の事務局を福岡市に置く。

### 〈目 的〉

第3条 本会は日独両国間の学術・経済・文化面の交流を助長し、あわせて両国民の親善を図ることを目的とする。

### 〈事 業〉

第4条 本会の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 例会の開催（ドイツあるいは日独交流の紹介、会員の親睦など）
2. ドイツ語教室の運営
3. 両国学生交流の支援
4. 年報の発行
5. 目的に沿う催事の主催・共催・後援

### 〈会 員〉

第5条 本会の会員は名誉会員、法人会員、個人会員、青年（40歳未満）会員、家族会員、学生会員とする。

1. 名誉会員、法人会員は理事会の同意を得て会長が決定する。
2. 個人会員、青年会員、家族会員、学生会員は会員の推薦により理事会で確認する。
3. 法人会員に所属する者2名以下を個人会員（会費無料）登録することができる。

### 〈役員および顧問〉

第6条 本会に次の役員・名誉会長・顧問をおく。

1. 会長1名、副会長3名以内、事務局長1名、理事若干名、監事2名
2. 役員は理事会で推薦し、総会の承認を得る。任期は2年、再任可とする。
3. 会長、副会長、事務局長は理事の互選とする。
4. 理事会の推薦により、会長は名誉会長、顧問を委嘱することができる。

### 〈委 員 会〉

第7条 本会は下記の委員会ほか、必要に応じて委員会を設け、委員長を理事の中から選ぶ。

1. 企画委員会、ドイツ語教室委員会、年報編集委員会、日独ユース委員会
2. 委員長は、理事及び会員の中から委員を選ぶことができる。

### 〈会 議〉

第8条 本会の会議は、総会、理事会とする。議事は出席者の過半数をもって決定する。

1. 総会は年1回以上会長が招集する。総会に付議する事項は以下の通り。  
①活動計画、報告 ②予算、決算 ③役員承認 ④会則変更 ⑤他重要事項
2. 理事会は会長が必要に応じて招集し議長となる。付議事項は以下の通り。  
①活動状況 ②財務状況 ③総会付議事項 ④役員の推薦 ⑤他重要事項

### 〈会 計〉

第9条

1. 本会の会計は、会費、事業（ドイツ語教室）などの収入をもって充てる。
2. 年会費は法人会員1口20,000円以上任意、個人会員6,000円、青年会員4,000円、家族会員3,000円、学生会員1,000円とする。
3. 会費を2年間滞納した場合は退会と見なす。
4. 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとし、期末には監事の監査を受ける。
5. 事務局スタッフを有給とすることができる。

### 〈付 則〉

第10条

1. 本会則上の疑義が生じた場合は、理事会で対応し、事後、総会で承認を得る。
  2. この会則は2019年4月21日から発効する。
- 注：2018年4月20日以前に入会の青年会員には入会当時の会費規則を適用する。

## ● 会員名簿

(2021年度末現在) 敬称略

### 1. 名誉会員：5名

Dr. Gross, Helmut      Haimer, Heyo E.      Hofmann, Klaus R.  
Dr. Knof, Wolfgang      Dr. Stickel, Gerhard

### 2. 法人会員：3法人

城島印刷(株)、西部ガス(株)、篠原公認会計士事務所グループ

### 3. 個人会員：115名 ○印は2021年度新入会員

明石英俊、麻生誠、荒木啓子、有吉千佳、井口アーデルハイト、池田紘一、池田園子、池田奈央、石村善治、井口哲也、今井宏昌、○イビツァ・タスコビッチ、梅野健、白井和実、江口舞、大澤遼可、岡嶋泰一郎、岡嶋美佐子、緒方愛実、小黒康正、落合桃子、折登美紀、尾張充典、垣本知子、萱野通子、加藤元也、加藤道子、川上達也、北芝幹怡、喜多村由布子、桑原康子、剣持邦彦、神代正臣、古賀浩一、古賀淳子、古賀友子、児島裕哲、マーレン・ゴツィック、小沼和夫、小松和子、堺雅志、坂本隼人、佐田正之、佐藤秀美、東雲由実、清水真弓、マーティン・シュトロートホフ、アントン・シュヴァイツァー、白土浩司、實原隆志、篠原俊、須藤秀平、瀬戸泰生、高崎隆一、高田淑、高木康裕、高柳英子、多田裕子、立花雅子、楯岡和子、田野武夫、瀧下真由美、武田利勝、竹下亜希子、田口武史、谷口博文、垂門剛、土井美弥子、土井和重、藤真理、富重純子、中里公哉、長澤和賀子、永野秀子、中村和子、中村直樹、永元康夫、二本木一哉、畠田美智代、橋本佳奈、廣田義幸、平野智香、平松智久、東原正明、福嶋まみ、福元圭太、藤野成爾、舩津邦比古、スウェン・ホルスト、ホルスト陽子、本田和親、松本浩二郎、御手洗淳、御手洗史子、南優美、宮崎亮、ヴォルフガング・ミヒェル、村上康子、村上浩明、諸岡須賀子、森光一郎、森永誠之、安川洋、山崎勝幸、山本明子、山本成宏、葉照子、横川洋、横川寛、○吉富惟亮、アンドレ・ライヒャルト、脇崇晴、渡邊秀水、渡部正和、渡邊裕一

## 編集後記

年報第46号をお届けいたします。新型コロナウイルスがこの世界に現れてから、早くも2年半が過ぎました。明かりが見えそうになっては、また状況が悪化するという繰り返しで、残念ながら、西日本日独協会も本来の活動を再開するには至っておりません。加えて、戦争、経済の混乱、食料とエネルギーの問題、政治不信、民主主義の弱体化、異常気象と、次から次へと発生する危機に押しつぶされそうになります。旧来の世界秩序は、深いところで液状化しつつあるようです。しかし、かような時代だからこそ、ポスト冷戦体制の出発点であるドイツ語圏をとおして我々の来し方行く末を見つめることには、とりわけ大きな意義があるでしょう。今号にお寄せいただいた玉稿を拝読し、そう強く感じております。寄稿者の皆様、ありがとうございます。ぜひ読者の皆様からのご感想をいただきたく存じます。

私の勤務する大学では、今学期、実に久しぶりに7名の交換留学生在がやってきました。ドイツへの留学派遣も再開することができました。しっかり手を繋いでいれば、みんなでどこかの岸辺に流れつくことができる。できるだけ多くの人と、手を繋いでいたいものです。

最後になりましたが、当協会の活動にご賛同いただき、広告を提供してくださった関係各社の皆様に、心よりお礼申し上げます。

2021年度 年報編集委員会委員長 田口武史  
(委員 藤真理、富重純子、中村直樹、池田奈央)

### 西日本日独協会年報 第46号 (2022)

Jahresbericht 46 der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Westjapan 2022

発行 令和4(2022)年10月28日  
発行者 西日本日独協会会長 岡嶋泰一郎  
編集 西日本日独協会年報編集委員会  
発行所 **西日本日独協会**  
〒810-0012 福岡市中央区白金2-9-6 城島印刷株式会社 気付  
**Japanisch-Deutsche Gesellschaft Westjapan, Fukuoka**  
Präsident : Dr. Taiichiro Okajima  
Büro : c/o Kijima-Insatsu, 2-9-6 Shirogane Chuo-ku,  
Fukuoka 810-0012, Japan  
Tel/Fax : 092-524-0059  
E-mail : info@jdg-nishinihon.org URL : <https://jdg-nishinihon.org>  
郵便振替 口座番号 : 01720-3-23959 名義人 : 西日本日独協会  
福岡銀行 屋形原支店 普通預金 口座番号 : 1194549  
名義人 : 西日本日独協会会長 岡嶋泰一郎

印刷 城島印刷株式会社  
〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9-6  
Tel 092-531-7102(代) Fax 092-524-4411